

3 改善のポイント

POINT 1

- 工程を見直すとともに、生徒一人一人の実態に合わせた手順表を作成しました。

生徒が「やりにくい」と感じている部分は、各工程を担当している教員が一番把握していますので、各工程担当者が個に応じた手順書を随時更新しました。

POINT 2

- 手順に沿ってマグネットを動かし、自分で手順を確認しながら作業ができるようにしました。

マグネットを目印に、自分が現在行っている手順を確認することができ、一人で作業を進めることができるようになりました。



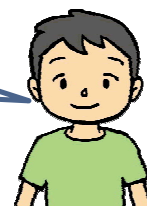
POINT 3

- 各工程は、「3回くりかえす」など、共通した手順に統一しました。

手順を一定にしたことで、誰が担当しても製品の仕上がりが均一になり、不良品が減りました。



手順書を見ながら自分で確認できるので、自信をもって作業に集中することができるようになりました。



4 授業者がわかったこと

- 個に応じた手順書を工夫し、日々見直していくことで、生徒がより主体的に、作業に取り組めるようになることを実感しました。
- 各工程の作業内容をより具体的に示すことで、不良品が少なくなり、出来上がりの品質が一定になりました。
- 手順書や工程を個に応じて工夫することにより、生徒が「一人でできる」ことが増え、教員の指示が自然と減りました。

